



戦後80年のあゆみ

日本の終戦から今年で80年が経過します。戦時から現在までの間、私たちの暮らしに大きく影響を与えた出来事などを歴史資料などから振り返ります。

問合先 総務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

第2回 戦時下で奮闘する戦地とふるさと

昭和12年に中国大陆で日中戦争が始まると、戦地への派兵とともに兵器を製造するため軍需産業をはじめ、鉄鋼や石炭など優先順位の高い産業に国民の多くが動員されました。また、輸入に依存していた米は増産努力が求められましたが、昭和16年にアジア・太平洋戦争が始まると青年男性の応召が相次ぎ、人手不足が深刻になっていきました。そのため、岩見沢、北村、栗沢では国の方針に倣い町内会や部落会、職域、児童生徒が勤労報国隊を編成し、班や学級単位で町村内の軍需工場や土木工事のほか近隣地域の万字、真谷地、弥生などの各炭鉱や繁忙期を迎えた応召農家への勤労奉仕に当たりました。出勤に対する謝礼金は、献金や寄付金として戦費に充てられました。

農耕馬も戦地に取り立てられ、高齢者や女性、地域の勤労隊員などに頼る農作業は、肥料などの資材不足もあって、米の作付面積は、昭和16年以降次第に減少し、収穫高も伸び悩みました。

国や社会の動き、郷土の行事や村民の勤労活動などを掲載した栗沢村の村報は、慰問袋とともに戦地にも届けられました。昭和18年秋、戦地からの便りには「今や郷土は稔の秋空知20万石の黄金の波を拝見唯々増産努力の農民諸氏へ感謝又毎月御送付に預る村報に懐しき在郷を偲び」と郷里の奮闘ぶりをたたえる言葉がつづられていました。

戦時期には女性や児童生徒も責務を担い、婦人会は、かっぱう着姿で炭鉱や応召農家へ出勤、農家の援農に来る学生たちの受け入れや傷痍軍人の慰問などに当たりました。また、岩見沢駅では、多数の女性駅員が業務を補い、鉄路を維持しました。

学生出陣が始まる昭和18年ごろからは、農学生、中学生や女学生も援農に動員されました。現在の岩見沢農業高等学校の前身である北海道庁立空知農業学校では、勉強よりも軍事教練と労働を伴う勤労奉仕に明け暮れた学校生活でしたが、北村に援農動員になった学生は「十分な白米をおなかに入れることのできる農村生活は厳しい、つらいというよりも、人生をたくましく生きる原体験になった」と振り返っています。



広報クイズ

正解者の中から抽選で10人に図書カード500円分をプレゼント

問題

令和7年度から5年間を計画期間とする岩見沢市こども計画の基本理念は「人の絆で紡ぐ□□の輪、です。□に当てはまる言葉をお答えください

応募方法

はがき、市ホームページのフォーム、ファックス(0126-23-7731)、Eメール(pr@city.iwamizawa.lg.jp)で、●クイズの答え●住所●氏名●年齢●電話番号●広報紙に関するご意見・ご要望を必ず記入し、総務部秘書課広報室へ。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。4月号の正解は1でした



締め切り 5月20日(火) (必着)

人の動き

住民基本台帳（令和7年3月31日現在）

人	男	34,305人	(前月比 - 216)
	女	39,263人	(前月比 - 199)
	総数	73,568人	(前月比 - 415)
世帯数		40,249世帯	(前月比 - 97)

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111 (代表) FAX 0126-23-9977

ホームページ <https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/>



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号2枠（申し込み多数の場合は抽選）

掲載料 各号1枠22,000円

申込期限 掲載希望号の3カ月前の月末(8月号に掲載希望の場合は6月2日(月)までに申し込み)

申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください



ID: 14518

広告募集中

広告枠

サイズ 縦40mm、横88mm

刷り色 4色（フルカラー）